

【エクアドル内政・外交：2014年1月】

1. 内政

(1) コレア政権成立7周年

ア 18日、土曜の国民との対話を終えたコレア大統領は、グアヤキル郊外において就任7周年イベントを実施し、各省庁の大臣及び与党APの国会議員らが出席した。

イ コレア大統領は、過去7年間の政治プロセスに関与してきた家族、同僚、野党に感謝を述べ、政府が推進してきた改革は、短期間で非常に多くのことを成し遂げ有意義であったと評価した。また、仕事を求めに海外に出たエクアドル移民が国内に戻ってきていること、国民が将来に対する希望を持っている現状は、過去の政権では実現しなかったことだと述べた。

ウ 15日付当地各紙は、コレア政権の7年間を評価する記事を掲載し、同大統領が国民の高い支持を背景に様々な改革を行う一方、同大統領による政府系メディアの濫用、野党の批判に対する反撃の激しさ、メディアに対する締め付け等に対する批判もある旨報じた。

(2) 選挙キャンペーンの開始

ア 7日、2月23日に実施される地方選挙の選挙キャンペーンが開始された。

イ 地方選挙に出馬する候補者は、これまで地方遊説やメディアによるインタビュー等を通じて事実上の選挙キャンペーンを実施してきたが、7日以降は正式な選挙キャンペーン期間となり、各候補者のメディアでの広告やプロモーション、ソーシャルメディアを含む活動を行うことができる。新聞、ラジオ、テレビにおける選挙キャンペーンについては、各候補者に均等に分配される公的資金のみ使用でき、自己資金によりメディア広告を行うことはできない。

ウ パレデス国家選挙審議会(CNE)代表は、再選を目指す現市長が公共事業に市長の顔写真を載せた看板を置くなどの事例がこれまでに散見されるところ、事前キャンペーンを行った候補者に対して罰則を科す旨表明している。また、コレア大統領が土曜の国民との対話集会の中で与党APの地方選挙候補者を紹介する等の行為は、選挙法第203条及び第207条に違反する旨の見解を明らかにしている。

エ なお、選挙キャンペーンは、投票3日前の2月20日までとなっている。

2. 外交

(1) パティーニョ外務大臣のカリブ諸国、ブラジル及びアルゼンチンの訪問

ア 13日、パティーニョ外務大臣は、ピエール＝リシャール・カジミール・ハイチ外務大臣と会合を行い、1月26日－28日にキューバで開催される第2回ラテンアメリカ・カリブ諸国共同体(CELAC)首脳会合の議題、米州人権委員会の制度改革、人権問題への取り組みに関して意見を交換した。

イ 同日、ドミニカ共和国を訪問したパティーニョ外務大臣は、ファン・マヌエル・トウルジョルス・ドミニカ外相代行と会合を行い、米州人権委員会の制度改革、シェブロンなどの多国籍企業による人権侵害、CELAC首脳会合の議題について協議を行った。

ウ 14日、グアテマラを訪問したパティーニョ外務大臣は、ルイス・フェルナンド・カララ・グアテマラ外務大臣と会合を行い、米州人権委員会の制度改革、多国籍企業の国際監視システムの創設、麻薬との戦い等について意見交換を行った。

エ 同日、グレナダにおいてパティーニョ外務大臣は、サント・ジョージ・グレナダ労働・通信・公共事業大臣と会談し、二国間協力を強化することに合意した。またグレナダ側からは同国の石油開発にエクアドルの助言がもらえないかとの依頼があった。

オ 同日、セントビンセント及びグレナディーンを訪問したパティーニョ外務大臣は、ラルフ・ゴンザルベス・セントビンセント及びグレナディーン首相と会談し、米州人権委員会の制度強化、多国籍企業の国際監視システムの創設、CELAC首脳会合の議題について話し合った。パティーニョ外務大臣は、暴風雨のために11人が死亡、何百万ドルのインフラ被害があった同国に対し弔意を示した。

カ 15日、ブラジルを訪問したパティーニョ外務大臣は、ルイス・アルベルト・フィゲイレド・マシャード・ブラジル外務大臣と会談を行い、米州人権委員会システムの強化、CELAC首脳会合の議題、南米諸国連合(UNASUR)の活動について議論を行った。また、スパイ活動に関し、ブラジルが4月23日及び24日にサンパウロにてインターネットの支配に関する国際フォーラムを実施する予定であり、同フォーラムにエクアドルを招待したい旨言及があった。また、両外相は、コリア大統領及びルセフ大統領が今年中にそれぞれの国を訪問したいとの意思があることを伝えた。

キ 16日、アルゼンチンを訪問したパティーニョ外務大臣は、エクトル・ティメルマン・アルゼンチン外務大臣と会談を行い、米州人権委員会の本部を変更し、同委員会の制度を強化することについて一致した。またUNASURについては、事務総長候補及び同連合の制度強化について話しあわれた。また、アルゼンチン側からは、フェルナンドス大統領が5月末にエクアドルを訪問する予定であることが伝えられた。

(2)グラス副大統領の中国訪問

ア 20日、グラス副大統領はLi Yuanchao中国副主席と会談し、両国の協力関係を強化することに一致した。Li副主席は「エクアドルは21世紀の社会主義を実現する世界から尊敬される国である。エクアドルは中国の中南米地域における主要な投資、融資先であり、中国はエクアドルの重要なプロジェクトであるパシフィコ製油所に協力

する用意がある。」と述べた。

一方、グラス副大統領は「中国とエクアドルの関係は総合的、持続的、迅速に発展している、中国は資源を開発する技術をもっており、エクアドルは資源をもっているため、両国は補完関係にある」と述べた。

イ 同日、グラス副大統領は、Luo Xi中国輸出信用保険公司(SINOSURE)代表、Miao Wei産業通信大臣、Wan Gang科学技術大臣、Zheng Zhijie国家開発銀行(CDB)会長、Wan Jifei国際貿易促進委員会代表、Li Ruogu輸出入銀行(Exim)代表、鉄鋼産業公司(MCC)、中国船舶工業公司(CSSC)代表等と会談を行った。

書式変更：左揃え、1行の文字数を指定時に右のインデント幅を自動調整しない、日本語と英字の間隔を自動調整しない、日本語と数字の間隔を自動調整しない

(3) パティーニョ外務大臣の第3回サンホセ協定締約国会合出席

ア 21-22日、パティーニョ外務大臣は、ウルグアイで開催された第3回サンホセ協定締約国による米州人権委員会改革にかかる国際会議に出席した。

21日、パティーニョ外務大臣は、米州人権委員会は人権の保護、促進、普及に歴史的役割を担ってきたが、現在の制度では問題があるため、改革が必要である旨の見解を示した。

イ また、アレクス・メラ大統領府法律顧問は、20日、米州人権委員会の制度改革に関し、「エクアドルは米国による国益追求のための制度乱用から人権委員会を守るため同委員会の制度改革をすすめようとしているが、もし改革が実施されなかった場合、エクアドルは米州人権委員会を脱退する」旨述べている。

(4) コレア大統領の第2回ラテンアメリカ・カリブ諸国共同体(CELAC)首脳会合出席

28日、キューバで開催された第2回CELAC首脳会合に出席したコレア大統領は、演説において、未だ植民地主義がはびこっているとして資本による支配、コミュニケーションにおける寡占、非政府組織の主権への干渉、米州人権制度において普遍性がないこと等を非難した。

書式変更：左揃え、1行の文字数を指定時に右のインデント幅を自動調整しない、日本語と英字の間隔を自動調整しない、日本語と数字の間隔を自動調整しない